

第63回廃棄物減量等推進審議会の意見等への対応

1. ごみ処理基本計画の進行管理（平成28年度実績）

No.	意見等	対応等	資料2 ページ
1	平成29年9月より割れた廃蛍光管を集団資源回収で回収しているということだが、割れた廃蛍光管を資源回収で集める理由と処分方法について教えてほしい。 また、廃蛍光管には水銀が含まれているので、取扱いには十分注意が必要である。回収量と排出方法についても説明してほしい。	資料3「集団資源回収における廃蛍光管回収について」で説明	5
2	平成28年10月に「その他の紙」の回収促進袋を各家庭に配布したが、「その他の紙」の回収実績を教えてください。	資料4「集団資源回収『その他の紙』回収実績」で説明	5
3	「総合評価」の処理単価については、「総事業費を押し下げる結果となったが、」とあるが、1ページの「経済性・処理単価」の中で減少しているのは、最終処分（埋立）経費だけなので、「処理単価については、増加傾向にあるが、ごみの発生量・処理量が減ったことにより総事業費は下がった」と書いた方が分かりやすい。	第63回資料2の総合評価は、東京電力賠償金の確定を前提として記載していましたが、平成30年1月現在、賠償金の支払いが未確定のため、賠償金を減算しない経費で評価することとします。総合評価を「処理単価については、過去4か年の推移で微増しているが、ごみ処理量の減少などに伴い、ごみ処理経費全体は減少傾向にある。引き続き削減に努め、処理単価を抑えていく必要がある。」と修正しました。 また、総事業費とその内訳の推移を示したグラフを3ページに追加しました。	9
4	ごみ処理実績の「3 資源化量」の推移を見ると、平成28年度から集団資源回収量がリサイクルプラザ資源化量を下回っている。今後の予想と、この傾向をどのように解析して、市の減量化・資源化の向上に努めていくか説明の準備をしてほしい。	資料5「リサイクルプラザ及び集団資源回収資源化量の推移と今後について」で説明	11
5	資源化量（ト）の列の合計が「43,797」トとなっているが、計算すると「43,794」トになり3トずれている。	資源化量の中にルール違反により排出された集団資源回収品目3トが含まれていませんでした。「新聞、雑誌、古着類・その他金属」の資源化量を「17,702」トから「17,705」トに、資源化率を「13.12%」から「13.13%」に修正しました。	13
6	総処理経費、収集経費などの表の一番下に、「1ト当たり処理費」、「1人当たり処理費」とあるが、19市全体の経費という意味であれば、表現を工夫した方がよい。	「1ト当たり処理費」を「19市合計（1ト当たり）」に、「1人当たり処理費」を「19市合計（1人当たり）」に修正しました。	16 ・ 17
7	「集団資源回収23,032」とあるが、1ページの平成28年度の集団資源回収量は「23,029」トとなっている。3トの差は何か。	ルール違反により排出された集団資源回収品目3トの差になります。1ページは3トがごみ量に含まれており、18ページは集団資源回収に3トが含まれています。18ページの「集団資源回収」を「集団資源回収品目」に修正しました。	18

No.	意見等	対応等	資料2 ページ
8	第5章2(1)「⑤事業系ごみの取り扱い」の評価に「1事業者あたりの廃棄物発生量が減少しており、」とあるが、これは減量化計画書を提出した事業所だけではないか。多くの市内事業所の減量化・資源化の取組みとそれに対する行政の取組み、許可業者に対する減量化の指導について説明してほしい。	議事(3)「事業系ごみに関する減量化・資源化への取組について(資料7)」で説明	7
9	第6章「5 高齢者社会対策」について、次回にコラムなどの資料を出してほしい。	参考資料「高齢者のごみ出し支援に関する記事」を参照	9

2. 横須賀ごみ処理施設の稼働について (第63回審議会 資料3)

No.	修正等意見	対応等
10	燃せるごみにCDカセット等を混ぜることは市民的に分別を良しとする感覚に水を差すのではないか。市民啓発を含めてどのような考えなのか。市民感覚としては、廃プラスチックだけ分けてくれと言われた方が分かりやすい。	議事(2)「廃プラスチックの分別区分変更について(資料6)」で説明
11	埋立期間17年のベースは何年の不燃ごみ排出量で立米換算をどうみているのか。 埋立処分量の将来推計見込みと、基準的な設計の比重等の考え方を教えてほしい。	三浦市最終処分場容量の算定については、平成25年度のごみ実績の原単位を算定し、将来人口に原単位及び年間日数を乗じ算定した推計を使用しました。 平成32年度から平成48年度までの17年間における最終処分量の推計については、2市の合計で38,869トンとなります。 容量算定に必要な密度については0.96 t/m ³ とし、最終処分場埋立容量は、埋立対象物の容量及び中間覆土、最終覆土の量から、48,900m ³ と計画しています。